

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	福岡県子ども療育センター新光園 わくわく		
○保護者評価実施期間	R8年2月16日		R8年3月18日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27	(回答者数) 25
○従業者評価実施期間	R8年3月9日		R8年3月18日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	R8年3月19日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	低年齢児から親子療育を中心とした保護者支援を実施している。親子療育やペアレントトレーニングを通じて、きめ細やかに児童の適切な関わり方や具体的な支援の方法を提供している。	各クラス毎月に1回保護者学習会を開催し、育児に関わる様々な情報を提供している。 また保護者の仲間作りを積極的に支援している。	新光園内の多種の専門職による講義や学習会を開催している。事業所だけでなく、新光園主催の保護者セミナーと併せて、医療、福祉、教育等、幅広い分野の情報提供を企画する。
2	多職種連携による療育支援を実施している。新光園外来や入園機能と提携した支援を実施している。	活動内容や療育支援について、多職種で協議し、支援方法を決定している。新光園の外来訓練部門と連携を図り、医療情報が共有できるシステムを作っている。	親子入園やショートステイ等、医療型入所施設の医療、福祉サービスを効果的に活用できる体制を整備する。
3	医療的ケア児も含め、肢体不自由児、発達障がい児、聴覚、視覚障がい児等、様々な障がい児の受け入れを可能としている。	看護師が常駐し、医療的ケアが実施できる体制を整備している。 発達特性に合わせたクラス編成を行うと共に、様々な児童が相互交流出来るように合同活動を実施している。	定型発達児と交流出来る活動を取り入れていく。 障がいがあっても社会参加できるよう、園外活動(買い物体験・交通機関の利用)を積極的に取り入れていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	新光園相談者がワンストップで療育が受けられない。	相談支援事業を併設していない。	相談者がスムーズに支援に繋がるよう地域の相談支援事業施設と連携をとり、ネットワーク作りを図っている。
2	親子療育を中心としているため、就労している保護者の児童にはサービスの提供が出来ない。	運営日が平日のみに限定しているため、保育園との併用が難しい。送迎サービス、延長療育を実施していないため、療育支援が届かない。	生活支援型の長時間の療育クラスだけでなく、短時間のグループ療育を実施する。画一的な対応ではなく、利用者ニーズに合わせたクラス編成を実施し、利用頻度についても柔軟に対応する。
3	原則乳児以外のきょうだい児の付き添いを不可としているため、未就園児のきょうだい児がいる場合、療育に参加しにくい。	児童の安全面を考慮した最低限の人員配置のため、きょうだい児を託児できる人的環境がない。	
4	定型発達児との交流事業が少ない。	開かれた施設になっておらず、地域との連携が少ない。	地域の幼稚園や事業所と積極的に連携し、交流できる機会を作っていく。